

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援センターはくはく子ども村		公表日	令和7年3月25日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	18	1	・7～8人に対して基準の広さはみだしている。 ・会を行うクラスとは別にプレイルーム、サーキットルームなど活動に応じた部屋を設け、療育を行うことができている。特にクラス分けをしていることで、一室あたり少人数で過ごすことができ、落ち着いて活動できる。	・プレイルームが少し狭く、特性のある児には特に声も苦手意識を持つ児もいるのでは、という意見があるが、遊戯室の規準は十分に満たしている。聴覚の過敏さから入室を嫌がる子がいる場合は、室内の音がこもらないように部屋の仕切りを開放したり、個別に落ち着ける環境を確保できるようにしていきたい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	19	0	・基準以上の人員を配置し、一人ひとりに丁寧な支援ができるようにしている。 ・利用児の状況にあわせて、マンツーマンの職員配置を行い丁寧な支援が出来るように配慮している。 ・利用児1～2人に対して職員1名を配置している	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	17	2	・活動内容や玩具等の配置などを絵カードや写真で視覚化し、わかりやすいように個々の子ども達の支援に配慮している ・片付ける場所にはおもちゃや楽器の写真が貼ってあり子どもたちが自分で片づけができるようにしている。 ・各クラスのホワイトボードに絵カードを貼り、活動の流れを視覚的に伝えている。 ・施設が大人サイズなので踏み台や補助便座を使い調整しており、手すりもある。 ・身体サポートが必要な子は、OTやPTに相談し、対応している。	・庭は転ぶと怪我するので、アスファルトではない仕様にしていきたい。 ・元々、高齢者施設だったため、トイレ・洗面所がとても使いづらい。トイレトレーニングは適した広さやサイズに改善したいと思う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	19	1	・部屋の温度設定、消毒、換気、加湿などに注意して取り組み、活動前後には換気や消毒などこまめに行い、清潔に保つように心がけ、感染対策に取り組んでいる。 ・活動に合わせて部屋を分けている ・随時、整理整頓を行っている。	・清潔さには気を付けているが、梅雨のカビ対策が必要。冬は水が冷たいので、冬はお湯のタンクを使って対応している。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	18	1	・子ども達に合った椅子や机など使用している ・体調不良時には、医務室を使用している。 ・活動に応じた部屋を設けている。 ・クラスの活動に応じて、色々な部屋や場所を使用する事が出来る ・言語聴覚士とのマンツーマン対応できる個室があるなど予備の部屋があり、個別に課題に取り組める環境を用意している。 ・気持ちを切り替えることが必要な場合、過ごせる場所がある。	・「個別で使用できる部屋が欲しい」との意見がある。各部屋を整理し、個別の部屋を確保したい。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	19	1	・朝礼やケース会議等設け、全職員で周知している。 ・目標を立て実行した結果を職員同士で話し合っている。 又、反省点は改善できるようにしている。 ・意見を言いやすい環境を作るため、各クラスにチーフを配置し職員の声を拾うようにしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	20	0	・ホームページで公開している。 ・年度末に保護者には評価表を配布し意向の把握に努め、改善検討している。 ・前年度、日々の活動が分からないと言う保護者の意向をうけて、毎月のお便りに加えて今年度から個別に3ヶ月に1度三にお便りの発行を開始した。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	19	1	・意見箱が配置されている ・更に職員の意見を幅広く聞く機会を増やす。改善に繋がれるようにしていく。 ・日常的に、情報交換する機会、不定期だが職員と代表の面談の場を設けている。 ・朝礼やケース会議等で発言の場を設けている。	・「職員の意見を伝える場があっても、改善に繋がっていないこともある」との意見もあり、業務で困っていることなどを聞き改善すべき点があれば反映していきたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	10	8	・利用者の意見は職員間で共通理解している。	・外部評価をしていない。今後取り入れていきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	19	0	・外部研修には交代で研修に参加したりしているが、職員全員で参加する機会もある。交代で研修に参加したときは、社内で伝達研修を行っている。 ・職員の研修する機会が増えるように心がけている。 ・法人内では、月1回全職員参加型のケース会議を設け、ケース検討の他にも発達やSST、感染対策など学びの場としている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	18	1	・支援プログラムは、作成しているが、まだ公表していない。 ・構造化された支援を行っている。 ・見学时、説明を行っている。	・HPにて公表する計画はある
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	19	0	・保護者の意向を聞き、日々の療育の中でアセスメントやモニタリングを行い、子どもの理解に努めている。 ・療育に直接関わる職員と児発管とで話す機会が普段からあり、聞き取りを行い、個別の記録にも目を通すなどニーズや課題を分析し、計画を作成している。 ・新規の場合は、見学时に体験で参加してもらいながら様子を観察し、保護者の悩みや希望を聞き、保育園での様子も聞いた上で作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員の共通理解の下、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	19	0	・支援員からの聞き取りやケース会議にて共通理解を図り、計画を立案している ・パソコンで全員の支援記録が共有でき、計画に基づいた支援を行っている。 ・療育支援員、相談支援専門員、CP、PT、ST、OT、の意見・見解を聞く機会を設けている ・毎日、療育後には振り返りを行い、反省点や改善点の確認を行っている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	19	0	・原案を基に共通理解・情報共有を図り、療育前に必ず支援計画を確認し日々の支援に活かしている。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	19	0	・医療機関で受けた評価や保護者の意向を反映し、強みを活かした支援ができるようアセスメントをとっている ・事業所独自のアセスメントツールを使用し、保護者から丁寧な聞き取りをしている。 ・支援計画に沿って、毎日の記録を行っている。	・標準化されたアセスメントツールではないが、適切に実施している。観察記録は毎回行っている。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	18	0	・R6.5月より、子ども家庭庁から提示された様式を用いて作成している。 ・本人の課題、ニーズに沿った計画が立てられている。 ・関係機関と連携しながら、個々に5領域の支援内容に基づいて設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	19	0	・制作、サーキット、季節のイベントなどそれぞれ班編成を行い、定期的に話し合いを行うなどチームで取り組むようにしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	18	0	・制作などの班やクラス単位で話し合いを行い、サーキットは定期的に見直しし、その他季節のイベントや制作などを取り入れて固定化しないよう工夫している。	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	19	0	・個々の課題に合わせて目標を設定し、内容を集団や個別の視点で作成している。 ・計画を見ながら支援を行っている ・小集団の活動の中で内容や対応に幅を持たせ、個に応じた対応ができるようにしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	18	1	・朝礼で情報を共有し、共通理解している。 ・朝礼の前後に各クラスで打ち合わせを行い、必要に応じて日案を作っている。	・毎朝朝礼を行ってはいるが、朝礼時に迎え業務で抜ける職員がほぼ毎日おり、その人への周知の徹底を図りたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	19	0	・クラス単位で職員室の席を配置し、話しやすい環境になっている。 ・支援後は必ず職員室で振り返りを行い、皆で共有し、反省点は改善するように努めている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	19	0	・毎回利用者ごとに、日替わりで担当を決め、たくさんの視点で観察し記録が取れるようにしている。 ・各自PCを使って記録を取り、共有フォルダを使って皆が目を通せるようにしている。 ・個別支援計画に沿った記録を行い、児発管は記録に目を通し、検証、改善につなげている。	
	23	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	19	0	・ケース会議で事例検討を行うほか、職員間の振り返りの場を児発管も共有するように心がけ、クラスのチーフからも児発管へ報告するなどして、必要に応じて見直しを行っている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	19	0	・施設長や児発管が参加しているが、参加する前に直接支援の職員に話を聞き、認識の違いがないか確認するようにしている。	
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	17	0	・C Pが地域の健診等に参加し、療育支援などを行う上で、情報の共有や連携できる体制がある。 ・保育園や関係機関の見学を受け入れている。 ・情報提供等、要請がある時は応じている。	
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	18	0	・利用者は皆、併行利用を行っており、担当者会議や療育支援等を通じて情報共有を行い、相互理解に努め、必要に応じて保育所等訪問支援を行っている。	
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15	2	・放課後等デイサービスを利用するにあたって担当者会議の中で情報の共有を行っている。 ・情報提供等要請があれば応じている。	
	28 (28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	8	2	・年に1回講演会を開いている。今年度は、通所事業所の職員や相談支援専門員、福祉課や保健師など子どもに関わる人たちを対象にS S Tについて外部講師を招いて実施した。 ・要請に応じてC Pが保育園などに出向き職員を対象とした研修を行っている。	
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	11	0	・C P、P T、O T、S Tとカンファレンスを行い、療育に生かすようにしている。 ・外部研修は、全職員が順番に参加できるように受講計画を立てている。	
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	7	4	・代表が自立支援協議会の委員であり、参加している。	今後は施設長等も同行していく。
	31 (31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	15	3	・全員が保育園、幼稚園と併用利用しているため、交流の機会はある。 ・イベントを開くなどして、地域の子どもたちと活動する機会も作っている。	
	33 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	18	0	・電話やメール、個別見学にて情報供給、共通理解に努めている ・気になることなどあれば、いつでも連絡がとれる体制を取っている。 ・月1回のお便りや定期的な個別のミニお便りを通して活動の様子を知らせている。	
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	18	0	・年2回ペアレントトレーニングを企画し、参加を募っている。 ・子育てに悩んだ時は、公認心理師との面談につなげている。 ・年度初めに、年長児の保護者を対象に子どもの理解について講話の機会を設けている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	18	0	・契約の時に説明を行っている。	・支援プログラムについては、見学の時に説明をしているが、ホームページにも掲載しいつでも確認できるように公表していきたい。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	19	0	・アセスメントを基に計画作成を行い、都度保護者のご意向・困り感の聞き取りを行っている ・対面での聞き取りの他、電話やメールを使って話を聞いている。 ・相談支援専門員とも密に連絡を取り、保護者の意向把握に努めている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	19	0	・対面にて、日頃の様子を話しながら丁寧に説明し、同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	18	1	・いつでもメールや電話等で子育ての悩みなどを受け付ける体制を取っており、相談内容に応じて助言を行い、希望があれば公認心理士などの専門家との面談も行っている。	センター機能強化事業の一環で、「は・こ相談所」を開催しており随時相談に応じている。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	14	4	・年に2回、家族参加型のイベントを行い、活動を通して交流の場としている。 ・年長児の保護者を対象とした説明会及び講演会を企画し、顔合わせの機会にしている。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	19	0	・常に相談は受け入れており、おたよりでも毎月その旨をお知らせしている。 ・契約時や見学の際に子育てで悩んだ時は、いつでも相談してほしいことを伝えている。 ・お手紙やメールなどで相談があった時は、すぐに連絡を取り、必要に応じて面談の機会を設けている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	18	0	・活動概要は、ホームページで公開している。 ・行事予定や連絡先は、毎月発行しているお便りに掲載し、行事で準備物が必要な時は、SNSを使って連絡し、連絡が取れない時は、直接電話をして知らせている。 ・施設長他、担当児発管の連絡先も伝え、連絡が取りやすいようにしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	20	0	・全職員、守秘義務の誓約を交わしている。 ・契約時に、個人情報取り扱いの同意をもらい、取り扱いには、十分に気を付けている。 ・持ち出し禁止にしている ・個人情報が含まれる書類はシュレッダー処理をしている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	20	0	・個々に応じ対応している ・ジェスチャーや絵、写真などを使い視覚的援助を行うとともに、ことばによる伝達は、理解しやすい言葉かけを心がけている	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	18	0	・法人全体のイベントや子どもたちを対象としたイベントには、地域の人にも声をかけて参加してもらっている。 ・保護者を対象としたイベントや地域の方を対象としたイベントを企画している。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	19	1	・保護者には、契約の時に説明を行っている。 ・職員を対象に想定されることについて検討している。 ・各マニュアルは一つの冊子に閉じて、気軽に手に取って確認できるようにしている。	・各マニュアルを作成し、訓練も行っているが、マニュアルのすべてを保護者様へ周知しているわけではなく、必要な部分だけ知らせている。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	19	0	・感染症対策と自然災害対策の事業継続計画は策定している。 ・子どもたちと一緒に毎月避難訓練を行い、地震、火災、風水害、Jアラート、不審者対応など様々な状況を想定している。 ・職員を対象に消防訓練（通報、救急救命法、消火など）を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	20	0	・契約やアセスメント時、服薬開始時に保護者から聞き取りを行い、職員間で情報共有している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	18	1	・事業所では、食事の提供はしていない。 ・未満児の補食は、保護者が準備したものを持参してもらっている。 ・午後利用の年長児は、市販のおやつを提供しているが、事前に保護者から聞き取りを行い、食物アレルギーのあるお子さんは、保護者と相談し医師の指示があれば確認して対応を決めている。	・医師の指示書を直接確認はしておらず、保護者様から説明を聞いて対応している。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	19	0	・計画を元に実施、定期的に見直しを行っている ・AEDや心肺蘇生法についての訓練を実施している ・安全計画は作成している。口頭での説明だけで訓練は行っていない。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	17	0	・契約時に災害が起きた時、事故にあった時などの対応について説明を行っている ・送迎車内でのチャイルドシート、ジュニアシート使用について確認をしている。 ・置き去り防止のシステムも使っている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	19	0	・事業が発生したら報告書を作成し、原因の追及及び共通理解、再発防止に努めている	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	20	0	・虐待研修に参加し、ケース会議で伝達講習を行うほか、不適切な保育の研修も実施してきた。 ・毎回、適切な対応をしているか、振り返り確認をしている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	17	2	・契約時に説明するほか、個別支援計画にも記載し、説明の上同意を得ている。 ・毎日の記録に身体拘束の有無を書いている。	現在のところ必要な利用者様はいない。	